

## 学習活動 1: 大阪弁の特徴やクラスメイトの名前で声調練習

⇒ 大阪弁の特徴を活用して声調を導入！

大阪弁には、仮名一文字の言葉は長音化し声調のような音の高低が現れる、助詞が省略されるという特徴がある。それを利用して声調の導入を行う。

### 活動の流れ

**Step1** まず、次の4つの文を発音させる。

「蚊取った？」(「かー」第1声)

「木切った？」(「きー」第2声)

「目痛い？」(「めー」第3声)

「毛切った？」(「けー」第4声)

**Step2** それぞれの最初の音の高低を意識させ、図示したものを見せる。中国語でも同じような音の上がり下がりがあり、それが意味の違い、漢字の違いになることを説明し、それぞれの声調を練習する。

⇒ 自分やクラスメイトの名前で練習しよう！

韻母、声母の練習はまだ全くしていないが、声調練習のために、クラスの生徒の名前を全員で発音する。その際に、声調符号のみを黒板に書きながら、発音練習をする。生徒の名前にちょうど3声+3声がある場合には、その部分を何度も発音し、声調変化に気づかせ説明する。全体での練習とともに、一人ひとりの生徒にも自分の名前を発音させ、音色がどうであろうと声調だけ正しければ、「よくできた」とほめて自信をつけさせる。声調が違っている場合には矯正する。

### 活動の流れ：

**Step1** 自分の名前を発音しながら、教室内を歩き回り、名前の最後の文字の声調が同じ人を見つけ、グループを作っていく。

**Step2** ある程度の時間が経ったところで、グループごとに自分の名前を発音させ、最後の文字の発音が正しいかどうか全員で確認する。これが形成的評価となる。

⇒ 大阪の駅名を使って鼻音韻尾をとまなう韻母を導入！

身近なことばを例に導入したほうがわかりやすい。大阪の生徒には大阪の駅名を使う。

### 活動の流れ

**Step1** 次の3つの大阪の駅名を発音させる。

「てんま(天満)」

「てんのうじ(天王寺)」

「てんがちゃや(天下茶屋)」

**Step2**

「ん」の音の違いに注意して発音させ、それぞれの音をどのように発音しているか気づかせる。それぞ

れの音が、日本語では意味の違いを生まないが、“普通話”ではm以外の2つの音が音節の最後で別々の音として意味の区別を生むことを説明し、意識させる。

☞ 自分やクラスメイトの名前を完璧に言おう！

声調、韻母、声母の練習を一通り終えたところで、クラスの生徒の名前を今度は声調、音色の両方が正しく発音できるように練習する。全体での練習とともに、一人一人の生徒にも自分の名前を発音させる。今回は、声調だけでなく、声母、韻母もうまく発音できていなければ矯正する。

活動の流れ：

**Step1** 生徒の名前の漢字を用いて、それぞれの漢字の声調やnと ng、有気音と無気音などを変えた選択肢をピンインで提示し、1文字ずつ聞き取りを行う。

例 1

A:měi    A':mèi

B:sān    B':sāng

C:tōng    C':dōng

**Step2** 生徒は発音されたと思うピンインに○を付けておき、あとで、そのピンインに対応する漢字を見ることで答え合わせをする。(発音が異なれば漢字が違ってしまふことを意識させる。)

例 2

A:měi(美)            A':mèi(妹)

B:sān(山) B':sāng(桑)

C:tōng(通)            C':dōng(东)

**Step3** 同じ形式のシートを使って、ペアワークで、一人の生徒が答えとなるピンインを発音し、もう一人の生徒が聞き取りをする。(答え合わせのみからは、正しく発音できたのか、正しく聞き取れたのかは確認できないが、生徒の正しく発音しようという動機付けになる。)